

管だの儀式だのを夥多遵奉してゐるッてとを知つてゐるから、それで誓ひをし
ろといふのだ。(傍自) 阿呆は玩具を神様だと思つて、それに對して誓言を守
るのが定りだから、斯う督促に及ぶんだ。(大きな聲で) だから、どんな神でも
いゝ、おまひの曾敬してゐる神によつて誓言してくれ、其小僧の命を助け
て養育するッてとを。 でなきや、何にも言はんぞ。

ルーシ では、わが神によつて誓言をするぞ、其通りにしてやる。

アーロ 先づ、其小僧は、おれが後に生ませたのだ。

ルーシ おゝ、飽くことを知らん淫亂女め!

アーロ チエツ! おい、ルーシヤス、此事なんかはお慈悲のうちだよ、これから話す
ことに比べりやア。 あのバッシエーナスを殺したのは、あの女の息子二人
だ。 その二人がまたおまひの妹の舌を切つたり強姦したりしたんだ。 そ
れから手首を切り落していゝ格構にしたりしたんだ、おまひが見た通りに。

ルーシ おゝ、おのれ、大悪黨めが! おのれ、あれを好い格構だといひをるのか?

アーロ だつて、お娘に取つちやア、洗つて貰つたり、切つて貰つたり、いゝ格構に
して貰つたりよ。 又それをしたやつらに取つちやア、結構なお慰みさ。

ルーシ おゝ、野蠻とも獸的ともいひやうのない汝によく似た悪黨ども!

アーロ さうもあらう、おれが教へてやらせたんだから。 やつらの淫亂根性は、あ
の外れッこなしの詐欺骨牌のお袋の遺傳だが、……あの酷い根性は、此……
鼻ア柱咬み切り犬の……俺さまの御直傳だらうよ。 おい、おれの爲た事を
聞いておれのお値打を知りな。 おまひの弟どもを、あのバッシエーナスの
死骸の入つてた陷井へ連れてつたのも俺だ。 おまひの親父の拾つた密書
もおれが書いた、それから后や其二人の息子と共謀して、其密書中にうた
はせた金を隠したのも俺だ。 おまひが悔しがる事で何一つ俺が關係して
ゐない悪事はないのだ。 おまひの親父を欺して手を斫らせたのも俺だ。

あの時おまひらに別れてから、あんまり酷く笑つたので、あぶなく心の臓を破裂させさうにしたよ。それから、親父めが、うぬが手の代りに二人の悴の首を貫つておい〜泣いてるのを扉の隙間から見た時にも、またおッそろしく笑つたので、おれの目にもやつと同じに、涙がまるで雨のやう。それから其事を後に話すと、后もをかしがつて、肚をかゝへて笑つて、すんでの事に氣絶をしさうだつたが、嬉しい事を知らせたといつて、二十たびもおれをキツスしたよ。

甲 ゴツス 將

呆れた奴だ！ そんな事を自白しながら、汝は赧い顔一つしようともせないのか？

ア—ロ

あゝ、せないよ、黒犬よろしくだ、世話にいふ通り。

ルーシ

それほどの大悪事を犯してゐながら、かりにも後悔をせないのか？

ア—ロ

後悔してるよ、あゝ、もつとやらかしときやよかつたにと。今でも呪つて

るよ、目ざましい悪事を何一つしえないで過した其日を、そんな日は極わづかだつたらうと思ふけれど。例へば、人を直接又は間接に殺すとか、強姦するとか、させる手傳ひをするとか、無罪のやつを誣告して偽證人になるとか、親友の仲を裂いて敵同士にならせるとか、貧乏人の家畜の頸根ツ子を折つて殺すとか、夜中に穀物小屋や積み枯草へ火を附けて其持主のらに涙でそれを消させるとか。折々は墓から死骸を掘り出して其親友の家の戸口へ立て掛けておいたともあつた、愁歎が忘れられかけた時分に。さうして其死骸の肌へナイフで以て、木の皮へ彫附けるやうに、ローマ字で「われ死せりとも愁傷を死なしむる勿れ」と刺墨したりした。チエツ！ おれがした怖ろしい事の数は千にも餘るが、而もそれを並の者が蠅一疋殺した程にも後悔しちやゐない。只、もう一萬たびもしときやよかつたにと思ふばかりだ。

此以前よき頃に兵卒らがアーロンを梯子へ登らせ絞殺の準備をするところがある。

ルーシ (兵卒らに) 其悪魔を下へおろせ。そいつには、只一思ひに絞殺されるなんぞといふ甘美な死に方をさせてはならない。

アーロ 夜叉といふ者が實際あるものなら、おれは其夜叉になりたい。地獄の消えずの火の中で焼かれながら生きてゐたい。さうすりやおまひたちと地獄で落ち合つて、又さんぐッぱら毒口をきいて苦しめてやれるからなア!

ルーシ おい、其口を塞ぎなさい。もう物を言はせないがい。

一ゴッス 出る。

ゴッス 閣下、ローマから使者が來まして、御面會が願ひたいといひます。

ルーシ お通しなさい……

イミリヤス 出る。

イミリ * ようこそ、イミリヤス! ローマ帝からのお使ひですか?

ルーシヤスどの、並びにゴッスの君侯たち、手前を使節としてローマ帝が御挨拶を申されます。帝は諸君が武装せられたを存じをられまするによつて、ルーシヤスどの、御親父の邸に於て、一應、開戦前の御協議を懇望せ

られまする。就いては、人質の御要求があれば、速かにそれをお渡しあるやうに申されまする。

甲 戈ッス (ルーシヤスに) 將軍の御意見は?

ルーシ イミリヤス、帝から人質を父及び叔父マーカスへ渡されさへすれば、参りませう……(兵士らに) 進め。

はひ 入る。

第二場 ローマ タイタスの家の前

タモーラ、デミトリヤス及びカイロンが假装して出る、タモーラは復讐神に、デミトリヤスは其使神の強姦に、カイロンは同殺戮に。

タモラ

斯ういふ不思議な、陰惨な服装をして、アンドロニカスに會つて、わしは、おまひと力を合せて非義非道を罰するために地獄から送られて来た復讐神だといはう。あいつはおそろしい復讐をしようとして不思議な案を凝らすために、いつも書齋にばかり閉ぢ籠つてゐるといふから、叩扉して、彼れに力を合せて、敵を討つために復讐神がやつて来たとお言ひ。

二人叩扉する。

タイタスが狂人らしい風體で高二重へ出る。

タイタ

だれだ、おれが冥想に耽つてゐるところを邪魔しをるのは？ ごまかして戸を開けさせて、一生懸命に考へたことをひよいと飛び出させて、おれの折角の研究を玉なしにさせようとするのか？ 駄目だ。しようと思つたことは、見る、血で以て此通り書きとめてある、書きとめてある以上、きつとやつて見せる。

タモラ

(作り聲で)タイタス、おれはおのしと話し合ひたいことがあつて来たのだ。

タイタ

いや、話し合ひはせんぞ。話し合つたつて詰らん、おれにやそれを實行する手がないんだから。おまひの方は勝ち目だ。だから、やめく。

タモラ

あゝ、おのしはおれを知らんだ。知つてをれば、喜んで話し合ひをする筈だ。

タイタ

おれは氣ちがひぢやないぞ。汝を知らなくつて？ 此惨めな手首のない手が、此眞ッ赤な字が、此苦患で出来た溝(皺)が、眠られん夜や紛らしやう

のない晝が、一切がつさいの悲みが保證人だ、汝を知らなくつて？ 汝は傲慢な后めだ、威張つてゐるタモーラめだ。うぬが來やがつたのは、此残つてる手をも取らうといふ爲だらう？

タモラ

あゝ、悲み愁へてゐる男よ、おれはタモーラではない。彼奴はおのしの敵だが、おれはおのしの身方として、地底の王國から送られた復讐神だ、おのしの怨敵に仕返しをして、日毎夜毎におのしの心を啄む兀鷹めを取鎮めてやるために。さ、下へおりて來て、おれを明るい人間界へ迎へて、虐殺や横死の話をするがいゝ、どんな洞穴でも、隠れ場所でも、暗い廣い處でも、深霧の谷間でも、おれが手を下すことゝなれば、酷い人殺しも憎い強姦も決して逃げおほせることは出來ん。そいつらの耳へ復讐神といふおれの怖ろしい名を聞かせるがいゝ、其罪人どもは忽ち慄へあがる。

タイタ

ぢや、あんたは復讐神さんなのか？ おれの敵のやつらを苦しめるために

タモラ

來て下すつたのか？

タイタ

さうだ。だから、おりて來て歡迎しな。

おりて行く前に、頼みたいことがある。そら、そこにあなたの傍に、強姦と人殺しが立つてるだらう。あんたが復讐神だといふ保證のために、そいつらをズブリとやつて下さい。でなきや戰車に縛り付けて引き裂かせて下さい。さうなりやおれが降りてつて、御者になつて、地球ちうを、あんたと一しよに、駈け廻らうよ。黒玉のやうな眞黒けな、良い馬を二疋備つて下さい、其仕返しの車を引ッばらせて、人殺しめらを隠れ家から捜し出すために。其馬にやつらの頭が積み込まれてしまやア、おれは車からおりて、さうして平の馬丁とおなじに車の輪に添つて、毎日々々てくく歩かア、日の神が東から昇つて西の海へ落ちるまで、其辛い役を勤めるよ、そこにゐる其強姦と人殺しめを殺してくれゝば。

タモラ こりやおれの下役だよ、だから従いて来たのだ。

タイタ え、あんたの下役なのか？ 何といふ名だね？

タモラ 一方はラバイン（強姦）、一方はマアダー（虐殺）。さういふ事をしたやつらに仕返しをするのが役目だから、さう呼ぶのだ。

タイタ おや／＼！ 後の息子供によく似てゐるなア！ あんたもまた後に似てゐる！ が、人間の目は情けなく狂つて、當にならんものだて。あ、有りがたい、かたじけない！ ちや、復讐神さん、すぐにおりてゆくよ。一本の手でもよけりや、今すぐに抱擁しよう。

二重から入る。

タモラ

氣違ひには、ま、こんな風に言つておくのさ。……わたしが彼奴の氣ちがひ心の機嫌を取つてどんな事をいはうと、おまひたちは調子を合せて、合ひ槌を打たなくちゃいけないよ、あいつは大丈夫、わたしを復讐神だと思つて

るのだから。正氣でないから、何でもこつちのいふ通りになるから、倅のルーシヤスを呼びにやらせて、さうしてあいつを宴會の席へ閉ぢ籠めておいて、それから急に巧い計略を考へ出して、浮附いたゴッスどもを退散させてしまふか、でなくもあいつの敵にしてしまはう。……あ、来た。さ、實行にかゝらう。

タイタス 平舞臺へ出る。

タイタ

長い間情けなく暮らしてゐた。といふのはあんたの爲にだよ。復讐神さん、よく来て下すつた、おれの此悲しい家へ。強姦どのや虐殺どのもようこそ。お、どうもよく似てゐる。后と其息子に！ これでムーアが従いてりやそつくりだのに。地獄ぢうに彼奴に似た鬼はゐなかつたのかい？ といふのはだ、后が出掛けりやア、ムーアが一人侶をするのが定りだからだよ。后らしく見せる積りなら、鬼を一足連れてくるとよかつたのに。が、

タモラ

ま、よう来て下すつた。で、これからどうするのだね？

おのしの望みをいふがい。

デミト

おれに下手人を知らせさへすれば、すぐにそいつをやっつけてやる。

カイロ

強姦を行つた奴を知らせさへすりや、すぐに其仕返しをしてやる。

タモラ

おのしを苦しめた者共の名を擧げるがい、何百人でもすぐに報罰を下してやるから。

タイタ

ぢや、此非道無慚なローマの街中を見て廻つて、虐殺どのや、あなたに似たやつがゐたら、ズブリとやつて下さい、そいつが下手人だから。(カイロンに) さ、強姦どの、あなたも一しよに往つて、あなたに似たやつに逢つたら、ズブリとおやり、そいつが強淫をしたやつだから。(タモラに) あなたも一しよに往つて下さい。宮中にムーアを侶につれた后がある。やつはあなたの姿格構をつくりだから、すぐ知れるよ。どいつもこいつもこちらとら親子を

タモラ

亂暴な目に逢はせをつたやつらだから、亂暴な殺し方をして下さい。

よく教へてくれた。その通りにしよう。時に、アンドロニカス、おのしの

勇敢な息子のルーシヤスがちやうど今、慄悍なゴッス軍をひきゐて、ローマ

へ攻め寄せてゐる、あれを呼んで、此邸で宴會を開いちやアどうだい？ 其

盛宴の最中に、后や其息子らや帝や其他おのしの敵共を悉くこゝへおれが

連れて来て、さうしてやつらに、平伏して哀を乞はせるやうにして、おのし

に怨みを晴らさせようと思ふのだが、どうだい？

(とんきよな大きな聲で) 弟、マーカス！ タイタスが呼んでゐるんだ。……

タイタ

マーカス 出る。

マーカスや、おまひの甥のそこへ往つて来てくれ。ゴッスの陣へ往つて、ルーシヤスを尋ね出して、おれのそこへ来いといつて、ゴッスの主な君侯の或者らと共に連れて来てくれ、兵士らは今ゐるところに陣取らせておけとい

つて。帝や后も来て會食するんだと倅に言つてくれ。何分頼むよ。孝心の深い倅に、もう餘命のない親父の頼みだと傳へてくれ。承知しました。すぐ歸つて來ます。

マーカス 入る。

タモラ ぢや、おのしの爲の仕事に取掛かることとして、下役共を連れてゆかう。

タイタ あ、いや、強姦と虐殺はこゝに残してつて貰はう。でなきや弟を呼び戻して、おれはルーシヤスだけに頼ることにする。

タモラ (傍白) おまひたちどう思ふ？ 残つてゐるかい？ わたしが往つて帝に企劃んだ悪戯がどんな風に進行してるかを話してくる間、ね、逆はないやうに機嫌を取つて、留まつといで、歸つてくるまで。

タイタ (傍) やつらはおれを氣ちがひと思つてゐるが、見る、今に計略の裏を搔いてやる、うぬ、憎い、地獄犬の母子め！

デミト (傍) お母さん、どうぞ御隨意に、わたしどもにおかまひなく。

タモラ では、アンドロニカス、復讐神はこれから出掛けてゆくぞ、おのしの敵とおしいれる計略を運らすために。

タイタ 信頼してお待ちします。リゼンチさん、さよなら。

タモラ 入る。

カイロ 老人、ところでおれたちの用は？

タイタ チェツ！ 仕事はたんまりある。……(奥に向つて大きな聲で) おうい、バブリヤス！ ケイヤス！ グレンタイン！

バブリヤス 其他ばらくと出る。

バブリ 何御用です？

タイタ 此二人を知つてるか？

バブリ 後の息子たちです。カイロンとデミトリヤスです。

タイタ

馬鹿ッ！ パブリヤス、馬鹿をいふな！ 大まちがひだ。こつちは虐殺で、そつちが強姦だ。だから、パブリヤス、そいつらをふん縛れ。ケイヤス、ヴレンタイン、そいつを取りおさへろ。かういふ時の來るのを俺は待つてると言つたらう。それが今來たのだ。だから、しッかり縛つて、叫きかけたら、口を止める。

入る。

パブリヤス 其他一同 立ちかへりてカイロンとデミトリヤスを縛らうとする。

カイロ

控へをらう！ おれたちは皇子だぞ。

パブリ

だから、いひつけられた通りにするんだ。口をお縛んなさい、物を言はせないやうに。……

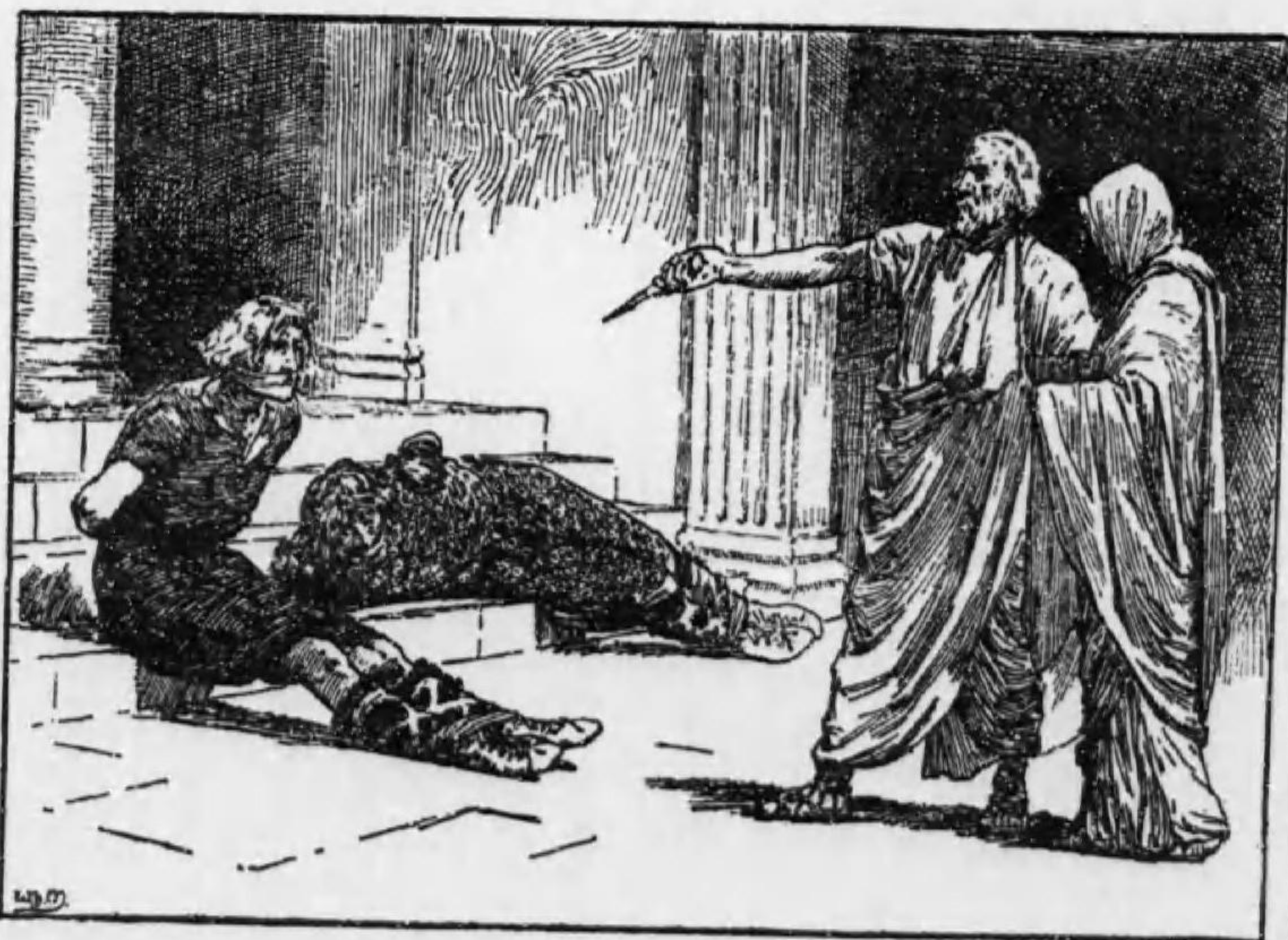
たちまは 立廻りになる。とゞ二人とも縛られる。

そいつも、大丈夫かい？ 二人ともしッかり縛らなくツちやいけな

タイタスがラギニヤを連れて出る。ラギニヤは手首のない両手で水盤を捧げ、タイタスは右の手に小刀を持つてゐる。

タイタ

さア、さア、ラギニヤ。見い、おのしの敵は縛られてゐる。おいおい、口を止めてくれ、物を言はせるな、これから怖ろしいことを言



ひ聞かせるから。おのれ、大悪黨のカイロンめ、デミトリヤヌめ！ やい、こゝにゐるのが汝らのために泥だらけにされた泉だ、花の春夏をようも冬枯れ同様にしをつたな！ この夫を殺しをつた上に、その大罪をこれの兄二人になすり付けて、死刑にさせ、其上、おれには手を切らせて、いゝ慰みだと嘲り笑ひをつた悪黨め！ この可憐な両手をも、これの舌をも、いや、其手以上、其舌以上の無垢清淨の操までを、おのれ、人非人め、よう手籠にしをつたな。よしんばうぬらに物を言はせたとて、何がいへる？ よもや恥ぢ入つて、神にお慈悲を願ふことも出来やすまい。 やい！ これから呵責んでくれるから、覺悟しろ。此一本の手は、うぬらの咽笛を搔ッ切る役には立つ。ラギニヤのあの切ッ株も、うぬら罪人の血を受けるためのあの水盤を持つてゐることは出来る。うぬらのお袋は、おれを氣ちがひだと思つて、リエンヂだと名宣つて、程なくこゝへ會食にやつて來るのは、うぬら

も聞いて知つてゐる通りだ。 やい、聞いとけ、うぬらの骨を碾いて粉にして、うぬらの血でこれを捏ねて、煉り物をこしらへ、それから其駄頭で以て饅頭を二つ製へて、あの汚ららしい淫婦のお袋めにくはせてくれる、おのが生んだ物を又呑み込む大地のやうに。 やつを呼んで、たらふく食はせたい馳走はそれだ。 吾女をフィロメルよりも酷くしをつたうぬら、ブログニーのそれよりも手ひどい仕返しをするから、さう思へ。 さ、喉笛の覺悟しろ。 ……ラギニヤ、血を受けろ。

二人の喉笛を小刀にて切る。

(皆々に) 死切ツちまつたら、骨を細ツかい粉にして、其憎い血で捏ねたやつで、其駄頭に衣を掛けて、焼くんだ。 さ、さ、みんな手傳つて、此料理の支度をしてくれ、人馬がした以上の凄い、おそろしい饗宴をして見せてくれる。 だから、こいつらを奥へ運べ、おれが料理番をするから。 お袋の來るまで

に、すつかり製へあげなくっちゃいかん。
死骸を擔いで入る。

第三場 同處 タイタスの家の庭

宴會の準備が出来て、食卓等が出してある。
ルーシヤス、マークス並びに數人のゴッスの貴族が出る。アーロンが繩附きで出る。

ルーシ マークス叔父さん、ローマへ來いといふのが父の命令である以上、異議は申しません。

甲 將 ゴッス われ〜とでもです。どういふ事が起りませうとも。

ルーシ 叔父さん、ムーアの此野蠻めをお渡し爲ます、此惡虎を、此憎むべき惡魔を。手枷を箠めたまよ、何にも食はせないでお置きなさい、後の面前へ引出して、彼女の惡行の證明をさせるまでは……帝方には、きつと惡意がありさうですが、身方の兵備は十分ですか？

アーロ どの惡魔か、來て、呪ひ語を囁いて、勢ひを付けてくれ、此心に溢れてゐる惡意と害心を、思ふ存分怒鳴り出してくれない！

ルーシ えイツ、人非人め！ 汚らはしい犬畜生め！……諸君、叔父を手傳つて、あいつを引ッ立て、つて下さい……

數人のゴッスがアーロンを引ッ立て、入る。喇叭の音。
あの喇叭は帝の來た知らせだ。

サタアナイナスとタモーラがイミリヤスを從へ、元老ら、護民官ら及び其他と共に出る。

サタア (ルーシヤスを覗んで) やい! おのしは、一つの空に、二つの太陽が出るというはうとするのか?

ルーシ 自分で自分を太陽と呼びなすつたつて、それが何にならう?

マーカ (制して) ローマ皇帝も、甥どものも、陣頭談判の口吻はおよしなさい。こんどの事は静かに穩かに協議せらるべきです。御饗宴の準備は出来てゐます、注意深いタイタスが、平利のため、親愛、協調のため、ローマの利福のためといふ極めて殊勝なる目的で、申し附けてをりましたから。どうぞ、こちらへお進み下されて、御めい〜に御着席下さい。

サタア マーカス、では、さうしよつ。

木笛を奏しはじめ。

タイタスが料理番の服装で出る。面覆ひをしたラギニヤ、少年のルーシヤス及び其他が出る。タイタスは調理品を盛つた幾

つがの皿を食卓に並べる。

タイタ 陛下にはようこそおいで下された。皇后陛下にも。勇敢なゴッス諸君にもようこそ。ルーシヤス、ようこそ。みなさん、ようこそ。貧弱なおもてなしではあるが、どうか十分にめしあがつていたゞきたい。

以下の問答の間に、めい〜よろしく飲食する。

サタア アンドロニカス、なぜおまひはそんな装をしてをるか?

タイタ 兩陛下におもてなしを致すのに、萬一にも手落ちがあつてはなりませんからです。

タモラ アンドロニカスどの、かたじけなう存じます。

タイタ いや、手前の心をお察し下されば、さやうおほせらるべきです。(帝に) 時に、陛下、承はりたいことがございます。むかし、短慮一徹なブージニヤスは、其實の女を、手籠にされ、汚され、辱められたゝめに、みづから其右の手を

サタア 下して、殺したといひますが、それは正當な行爲でございましたらうか？
正當だつたといつていゝ。

タイタ とおほせられまする理由は？

サタア なぜなら、さういふ恥辱を受けた娘は生かしておくべきではないからだ、
顔を見るたびに悲みを新たにするわけであらうからだ。

タイタ 強大な、有力な理由です。 惨めな手前に取つては、模範であり、先例であり、
生きてた保證であります。……ラギニヤよ、死ね、死ね。死ねばおのしの
恥も死ぬ。おのしの恥が死ねば、此父の悲みも死ぬわい！

といひもあへずラギニヤを刺し殺す。

サタア やッ！ 何といふことをしたんだ、非倫な、無慈悲な！

タイタ 今殺した此むすめゆゑにこそ此目は涙で暗んでしまつた。身の不仕合せ
はブージニヤス同様だが、此暴行を敢てするには、彼れに千倍する理由が

サタア あるのだ。だから、斯うしたんだ。

えッ！ では、だれかに手籠にされたのか？ だれがそんな事をしたのだ？
ええ？

タイタ (此問ひには答へず) さ、どうぞめしあがつて下さい。(タモラに) 陛下、いかゞに
ございます？

タモラ まあ、どうしてたつた一人の娘を殺したのです？

タイタ おれが殺したのぢやない。カイロンとデミトリアスが殺しをつたのだ。

あいつらは彼女を辱めた上に、舌まで切り落しをつた。やつらだ、やつら
がしをつたのだ、さういふことを。

サタア すぐ往つて二人を引ッ立て、來い。

タイタ いや、もう二人ともそこにゐます。 それ、そのお袋どのが旨さうに食つた
饅頭がそれだ。 うぬが生んで育てた肉を食ひをつたのだ。 全くだぞ。 全

くだぞ。此ナイフの切れ味を見をれ！

とタモーラを刺し殺す。

サタア うぬ、氣ちがひ爺め、其天罰を思ひ知つたか！

とタイタスを刺し殺す。

ルーシ

子たる者が父の殺されるのを看過することが出来るか？ 功勞には賞を、惡業には死を！

サタアナイナスを殺す。

大騒擾。右往左往。

マーカス及び其黨與だけは、高二重へ登る。

マーカ

（一同を見おろして）諸君よ、ローマの民衆諸君よ、只今の騒動のために、譬へば大暴風に吹き散らされた水鳥の群のやうに分散し、愁然としてをられる人達よ、おゝ！ 斯く撒き散らされた穀を如何したら又もとの一つ束にする

とが出来るか、此折れ砕けた手足をどうしたら又もとの五體へ戻すことが出来るか、それを手前が諸君にお教へ申したい、ローマ國人自身が自滅を望まれない以上は、世界の諸強國をもすらも服従せしめたローマが、自暴自棄の徒の如くに自ら辱め自ら滅さんとせない以上は。が、若し此、嚴肅なる經驗の保證たる手前の頭の霜が、此面上の印跡が諸君をして傾聴せしむるに足ぬならば……（といひかけて、ルーシヤスに）ローマの親友よ、あんたから話して下さい、其昔われくの太祖イニヤスが、戀に惱みつゝ肅然として聽いてゐた女王ダイドーに、彼の機敏なるギリシヤ軍が、不意にトロイ城を焼き滅ぼした其の無慚な夜の一部始終を話したやうに。又どんな妖婦めがわれくの耳を魅惑したか、乃至何者がわがトロイたる此ローマへ斯んな内訌の痛手を負はせる忌はしい機關（木馬の事に擬していふ）を持たむに到つたかを。自分の心は燧石や鋼鐵では出来てゐない。いや、苦い悲歎の

有りつたけを言はうとすると、辯舌が涙の洪水の爲に溺らされてしまひ、
 聽いて貰へば、諸君の同情が贏ち得られる大事の場合に、物が言へなくな
 つてしまふ。……ここに大將がをられる。此仁に話させて下さい。話を聞
 かれたら、諸君は感動して泣かれるであらう。

ルーシ

(代つて前へ進んで)では、高貴なる聽衆諸君よ、先づ以てお知らせします、皇帝
 バッシエーナスを虐殺した憎むべき下手人はカイロンとデミトリヤスであ
 りましたぞ。自分の妹を辱めたのも彼等でありました。又彼等の其殘
 忍な罪科の故に、自分の弟共は首を斬られ、父の歎きは徒らに蔑まれ嘲ら
 れ、剩へローマの爲に勇戦して外敵を墓へ送つた其忠誠な手を欺き取られ
 ました。最後に、市門が自分に對つて閉ぢられたので、據ろなくローマの
 敵國に走り、泣いて救援を求めました結果、至誠の涙は怨敵の心をも和ら
 げ、双手を抜き、友として自分を抱擁してくれました。諸君、自分は今は追放

人ではありますが、嘗ては祖國の幸福を此血を以て支持したことがあつた、
 嘗ては祖國の胸に擬せられた外敵の劍を奪つて、それをして此肉體を屢々
 貫かしたことがあつたと御承知下されたい。あゝ！自分は決して高
 言を吐くものではありません。(五體の傷痕を示しつつ)此傷痕が、物は言ひません
 が、今いつたこの事實だといふ證據です。いや、併しながら、こりや餘計な
 お話だつた。詰らん功勞なぞを申し立て、濟みませんでした。あゝ！
 御免下さい。とかく親友の無い者は自分で自分を褒めたがるものです。
 と急に口を噤む。

マーカ

(又前へ進んで)さて、これからが自分の番です。……(ムーアの幼兒を衆人に見せて)
 此小兒を御覽なさい。これをタモーラが生んだのです。あの無宗教の、
 今回の慘害一切を企んだ發頭人のムーアめの胤です。あの惡黨めは憎い
 やつではありますが、まだタイタスの宅に生かしてあります、此事の證人

たらしめるために。さア、斯う云ふ次第であつたとすれば、如何にタイタスの復讐が當然であつたかを御判断下さい。言語道断の、人間としては到底忍ぶべからざる害辱であつたことをお察し下さい。これが事實であつた以上諸君は之に對して何と言はれますか？ 若しもわれ々の行動に何等かの誤りがあるなら、それをお示し下さい。御覽なされる、此屋上から、アンドロニカス家の哀れな遺族一同は、手に手を取つて、眞逆様に身を翻して、凸凹の路上の石に頭腦を微塵となしてわが一門を全滅させます。ローマ人諸君よ、返辭をして下さい、返辭を！ さうしろといふ御返辭なら、ルーシヤスと自分は、すぐ、こゝから、手に手を取つて飛び下ります。あ、いや、ルーシヤスの元老たるマークカスどの、われ々の新帝たるべき其ルーシヤスどの、手を取つて、しづかにお降り下さい。手前は、國人たち一同が聲を揃へて、それを賛成し喝采されることゝ信じます。

イミリ

マーク

(ルーシヤスに向ひて) ローマの新皇帝、ルーシヤスどの、萬歳！ (侍者らに) おい、老タイタスの哀傷の宿元へ往つて、あの無宗教のムーアめを引ッ立て、來な、生前の大惡無道を罰するため、ある怖ろしい死刑に處するであらうから。

侍者ら 入る。

ルーシヤス、マークカス及び其他の者が高二重を去りて、やがて平舞臺の上手から出る。

衆人

ルーシヤスどの、萬歳！ ローマの救濟主！

ルーシ

ローマの民衆諸君、ありがたう！ ありがたう！ ……何とぞ自分をして祖國の患害を療治すべき又祖國の災厄を拂拭すべき良君主たらしめたまへ！ ……だが、親友諸君、どうか暫らく考へさせて下さい、何分にも身に餘る大任なのですから。 ……諸君、もつと離れて下さい。叔父さんは、もつと

近くへおいでなすつて、此遺骸に哀悼の涙を灑いで下さい。……おゝ！（と
タイタスの死骸を抱いて、キッスをして）あなたの蒼白な唇へは此温いキッスを、
あなたの血まみれのお顔へは此哀傷の涙の雫を！これがあなたの立派
な血を受けた倅の孝行のしをさめです。

マーカ

涙に報ゆる涙を、キッスに報ゆる友愛のキッスを、あなたの弟のマーカスが
あなたの唇にまゐらせまするぞ。おゝ！其支拂ふべき涙やキッスが無
量無算であつたとて、支拂へるものなら支拂ひたい。（と泣く）。

ルーシ

（少年のルーシヤスに）小僧、こゝへ来い。こゝへ来て、おれのする通りに、泣い
てお弔ひをしな。お祖父さんは汝を大變可愛がつてゐなすつた。膝へ載
ツけて踊らせたり、唄をうたつて眠かしたりしてくだすつた、胸を枕にさ
せて。いろ／＼の話をしてくだすつた、子供に解るやうな面白い話を。
だから、孝行な子供らしく、其きやしゃな泉から小粒な雫を灑ぎかけてあ

げな、情の深い人ほど然うして貫ひたがるものだ。親は泣き寄りだ。お
祖父さんにさやうならをして、お墓へ送つてあげるんだ。さ、今いつたや
うにしてお別れをしな。

少年

おゝ、お祖父さま、お祖父さま！僕は死ぬるものなら、喜んで死にたいで
すよ、若しさうすりやお祖父さまが生き返つて下さるのなら。あゝ、悲しい
ので物がいへない、口をあかうとすると涙が出て、息が出来ないんだもの！

侍者らがアーロンを引立て、出る。

群衆のローマ市人のうちの一人が前へ進んで、マーカスに

一市人

アンドロニカスどの、御道理ではありますが、もはや御愁傷をおとゞめに
なつて、此憎みても餘りある、大惨事の發頭人めに御宣告をお下しくださ
い。

ルーシ

そいつは土の中へ胸まで生理にして、食物を與へないでおいて、怒鳴つて

も、食を求めても、うツちやつておくがよい。救助したり憐んだりする者は死刑だといひわたして下さい。これが宣告です。だれか生理にするのに立會つて下さい。

ア—ロ

(奮然として) おゝ！ 癪に障つてたまらんのに、黙つてゐる必要はない！

おれは卑劣な祈りなんぞをして、犯した悪事を後悔するやうな赤んぼぢやアないぞ。あゝ、思ふやうになるもんなら、今までのしたのゝ一萬倍て悪事がやらかしたいんだ。若し只の一度でも善い事をしたやうだつたら、それこそ魂ひのどん底から後悔する。

ルーシ

(群衆に) だれか帝に親しかつた人達の手で、帝の遺骸を運び出して、前帝の廟へ埋葬してください。亡父とラギニヤの遺骸も早速わが家の墓地に收めることにしよう。……其極悪非道のタモ—ラは、葬儀を營むに及ばん、喪服を着したり、吊鐘を鳴らしたりするにも及ばん。野獸なり野鳥なりへ

投げ與へるがよい。野獸の如き生を送り、慈悲心を缺如してゐた女であつた以上、慈悲を施さないが當然だ。……今度の惨害の發頭人たる其罰當りのムーア、ア—ロンめは、申し附けた通り處刑せい。それらの事が濟んだ上で、秩序の整理に、二度と斯様な事の出來せないやうに。

皆入る。



タイタス・アンドロニカス 終

*
*
*
*
*
*
*
*
*
*
*
*

大正十五年八月四日印
大正十五年八月七日發行

(製復許不)

スカニロドンア・スタイタ
附 奥

錢拾五圓貳金價正

譯者
發行者
印刷者

東京市牛込區余丁町百十四番地 坪内雄藏
東京市牛込區辨天町百五十七番地 種村宗八
東京市牛込區榎町七番地 竹内喜太郎

發行所

東京市牛込區
早稻田

早稻田大學出版部
(振替口座東京二二三三番)

—(刷印社會式株刷印清日)—

文藝學博士坪内逍遙譯

沙翁全集 (第七編)

テロペスト

この作は沙翁の絶筆といはれてゐる。これに關しては卷末に譯者が多年の研究考察になつた一大論文を附録として添へてあるが、成程さうかも知れない。いかにも豊潤な、深刻な、も綽々たる餘裕のある夢幻的な高雅な喜劇である。前六種の作とは全く趣味調を殊にした、ロマンチックな喜劇で、妖精が出る、牛人半獸の怪物が活動する、神仙のやうな人物、男を生れてからまだ二人とては見てゐなかつた處女がはじめて戀を知るなど、感興盡くる所がな

沙翁全集 (第八編)

アンニニダレオハトラ

沙翁の偉大なのは其作の彌、出て彌、傑特な點にある。作意の變化して窮らない所にある。此作は其作才の爛熟期の最後の傑作で、巧みに世界的悲劇の契機を捉へて「全世界に君たらんか、熾烈なる肉の戀愛を全うせんか」といふ大ザレンマに達着した英雄的放蕩兒が功名の末路を活寫したもので、所謂四大悲劇以外に一新機軸を出だし、諸評家をして沙翁作中の最大驚異と推賞せしめた。殊に、妖女王の性格の描寫は眞に驚異中の驚異で、古今空絶である。其間に丸て漢楚軍談でも讀むやうな男性的、政治的な興味が漲る。

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

發行所 早稻田大學出版部

文藝學博士坪内逍遙譯

沙翁全集 (第九編)

眞夏の夜の夢

大沙翁の多方面な天才の空想的側面の代表作としては、此上もない醇乎とした醇な作である。先づ「テムペスト」に似たものだとはいへるが、若し時分の作だけに更に愉快、更に奇抜、更に微妙、更に飄逸である。五幕十幾場、其三分の二は悉く夢であり、幻である。想も夢幻的にあり、調も夢幻的にあり、極めて自然である。理窟を全脱して、梁し夢に人、幻を翻弄する。人妖が錯綜するが、滑稽があり、葛藤があり、悲喜がある。勿ち喜劇、勿ち笑劇、勿ち歌劇、絶對無類の脚色。

三色版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

發行所 早稻田大學出版部

沙翁全集 (第十編)

マクベス

所謂四大悲劇のうちで、沙翁が伎倆の圓熟期の作である。ドストエフスキの「罪と罰」の結構を更に雄大にし、その傑作として沙翁の活動寫眞ばかりでも三種以上あつた。所謂劇書名略誌を添へた。これは我國の沙翁研究の沿革を精査したもので、其年月、外題、譯者、案、年、上演、所、大、悲、劇、中、で、は、これが一等讀み易いであらう。

三色版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

發行所 早稻田大學出版部

文藝學博士坪内逍遙譯

沙翁全集 (第十六編)

お氣に召すま

沙翁が幸福に暮らしてゐた得意時代の作であるので、彼れの喜劇中の最も陽氣な、最も愉快な作だと稱される。讀む者も自然と暢氣な晴々した心持になる。「牧歌的」と特稱される作である。田野山林の詩趣が横溢してゐる。或部分は品のよい喜劇とも見られる。舞臺が主として深林中なので、野外劇の脚本にもされる。清淨な、無邪氣な、可憐な、高雅な作意であるから、外國では女學校の餘興用に歡迎してゐる。既譯十五卷中のどの作とも違つてゐる處に此作の特色がある。

沙翁全集 (第十七編)

おやん馬劇

沙翁立身前後に流行つた、フランス仕立の思ひ切つて變から式な喜劇の代表作である。其れ自ら一喜劇である開幕劇へ、本筋の喜劇を編み込んだ趣向が、先づ最も珍らしい。雷聲が雷娘を難なく征服する段取に至つては更にをかしい。不思議に今も尙歡迎される喜劇である。我國では其幾場かは翻案された。本譯には例の挿繪以外に特に名優の寫眞數葉を挿入した。沙翁の喜劇中の最も分り易いものから讀みたいと望む人は、先づこれからお讀みなさい。

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

發行所 早稻田大學出版部

文藝學博士坪内逍遙譯

沙翁全集 (第十八編)

十二夜

既刊「お氣に召すま」の姉妹篇である。學生の同胞の女の方が故。つて男裝してゐるのが間違ひの種になる作意である。此間遠ひを骨子とした點だけは作者の習作期の或作に似てゐるが、劇詩としての價値は無論數等優つてゐて、沙翁が作中、喜劇としては最も純粹なものと稱せられ、今尙愛讀もされ、實演もされる。既刊のどの作とも異つた味だから、之を讀むと沙翁の創作力の彌、出てて強、無盡藏なことが分る。上品な滑稽、高雅な戲謔の上乗である。

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

沙翁全集 (第十九編)

コリオレハナス

ニイチエの超人道徳の標本のやうな傲岸不敵の一族を中心にして、其周圍に渦巻くアリストクラット對プロレタリアの黨争を経緯とした作である。専ら男性趣味と政治的感興で終始し、一の挿話をも一の戀愛情味をも粧點しないで鋭く性格悲劇としての筋を一貫したのが沙翁集中の異例である。特權階級の専横、武斷政治の弊、平和と戦争の得失、所謂多頭の怪物たる群衆の蠢動、選舉期に於ける俗政治家の戸別訪問等、ところ々現代に對する批判や諷刺が皮肉にも豫寫されてゐるのが面白い。

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

發行所 早稻田大學出版部

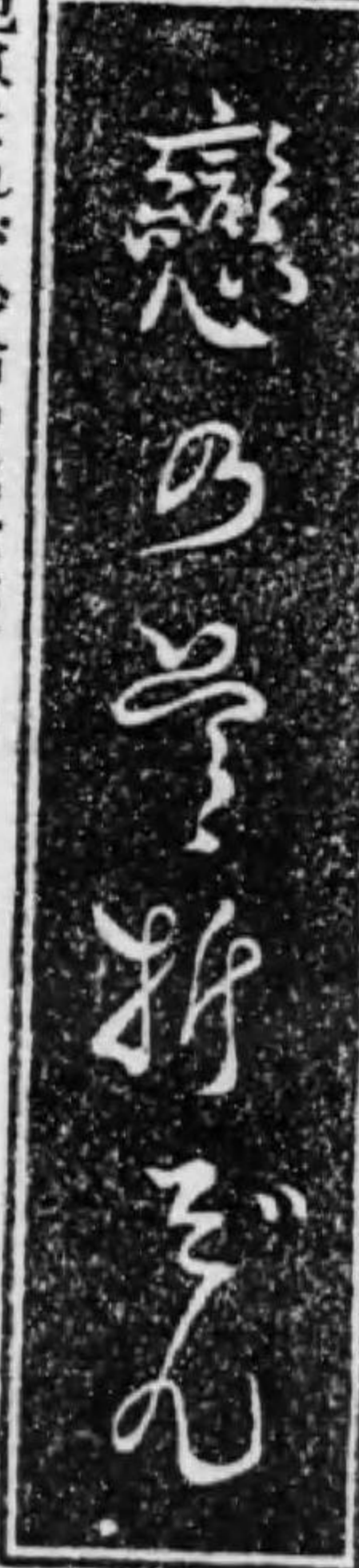
文藝學博士坪内逍遙譯

沙翁全集 (第二十編)



沙翁が最晩年の三大ロマンチック劇の随一で「テムペスト」や「冬の夜話」の姉妹篇です。女主人公イモーゼンは作者の理想的淑女だと推想される、筋も脚色も趣味情調も不思議に我歌舞伎劇に似てゐる。本篇には譯者が過去十六年間の工夫を語る長篇の翻譯苦心談が添はつてゐる、それは世のクラシックを讀む人及び譯する人の絶好指針です。例の通り豊富な挿畫、コロタイプのお給が三葉、エレメンタリーのイモーゼン、青年期のゴルツンクレーグの王子など。

沙翁全集 (第廿一編)



此作第一の特色はそれが沙翁の處女作であるに随つて古今獨歩の世界的劇天才の發達を跡附くべき必讀書たるに第二は其時代相の反映、諷刺、漫畫であるに就中不自然な街衢的辭令や嬌飾的口語の嘲弄であるから滑稽百出戲謔縱横の對話劇であるに而して主題は五才女と五才子の戀愛戦争、脚色は詩的、譬へば三馬、一九、鯉丈、全驚らの作意を高尙にし貴族的に女性的情味を豊かにして劇化したやうな作、地口や語呂や當込みや駄洒落の連續、到底翻譯すべからざるもの、それを此譯者がどう取扱つたかは是れ亦譯の興味である。

四六判美裝
口繪及挿畫多數
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

發行所 早稻田大學出版部

文藝學博士坪内逍遙譯

沙翁全集 (第廿二編)



沙翁の英國史劇中の白眉と詩人コールリッヂが激賞した大詩人の習作時代の名作である。殆ど正史其儘の筋を辿りながら立派にそれを劇化し、且つ短所弱點の多い主人公の王を敢て作り飾ることをしないで十の凡人味を持たせて有りのまゝに寫し、而も詩趣に富んだ一悲劇に仕上げた手際は、三百數十年前の戲曲としては偉觀である。其點で此作は沙翁の代表作、特に興味が多い。特に興味が多い。特に興味が多い。特に興味が多い。

三色版口繪入
挿畫多數
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

沙翁全集 (第廿三編)



劇作家としての技術が圓熟して筆に油の乗つた時分に女王の特命で二週間に頓作した高尙な曾我のや式喜劇である。沙翁が全部を散文で書いた作は此外にはない。英國當時の地方中流生活の寫生圖、十人十色の男女が縱横に錯綜して滑稽な戀の三角關係を中心に活躍する。厚顔無恥な不良老年、頑鈍な老地方判事、低能の青年郷神、フランス人の醫士、無作法な旅館主人、淺學の村學究、頑鈍な老地方判事、低能の青年郷神、フランス人の醫士、無作法な旅館主人、饒舌の慶菴婆、紳士處女無賴漢等、事件は滑稽人物は崎人、其一々の口吻語辭まで譯者は例によつて如實に活寫しようとして力めてゐる。

三色版口繪入
挿畫多數
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

發行所 早稻田大學出版部

文藝學博士坪内逍遙譯

沙翁全集 (第廿四編)

おとぎ話のたぐひ

主人の若紳士も双生児。其従僕も双生児、それが一組づ、當歳の頃に別れ、丁年後に逢ふといふ豫備知識なしに出逢つた處から起る奇妙不思議な併し舞臺で觀る物としては取扱ひ方が巧妙なので如何にも自然な、さうも有りさうな滑稽的な誤解並に錯覺の連続を内容とした笑劇、二組の双生児に扮せしむべき俳優さへあれば今日どこで演じても成功すべき笑劇。讀み物としても地口や語呂や戯語や警句の連發は火花を散らすやう。間ちがひ又間ちがひの滑稽は噴泉の湧き出すやう。要するに既譯諸作とは全く類を異にする一喜劇。

沙翁全集 (第廿五編)

タイタス・アンド・ドロニカス

寫眞版口畫入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

沙翁の習作時代にロンドンで民衆に狂喜されてゐた「血の悲劇」の代表作、捕虜王子を生きたながら火刑にしたのが業因で凱旋將軍の女が辱められ舌を断たれ手を断たれる其兄二人が冤死する其老父が欺かれて自ら手を断ち半狂亂になる。殘忍な捕虜王妃の此奸計的復讐に報ゆるに被害者らは更に一層の殘忍を以てした。大詰には主要な人物が大抵血みどろの死骸となる、事件も殘酷、人物も殘酷だが就中夜叉王妃の奴てあり情夫である黒人アロンはイヤゴイ以上の人面魔、其徹底的惡黨振に比べると南北の惡漢などは只の人間である。大詩人が果してこんな毒々しい悲劇を書いたらう歎。それは専門家問未決の疑問！

發行所 東京早稲田 早稲田大學出版部

坪内逍遙著

家庭用兒童劇

第一集

定價貳圓貳拾錢
郵稅八錢

目次

狐と 鴉
こだま 雀
獅子と虎の喧嘩
親雀と子雀
蠅と蜘蛛
田舎の鼠と東京の鼠
神樂師の息子銀吉

メレー婆さんと其飼犬
觸るると金
鳥の裁判
をろち退治
龍を宮
附錄
家庭用兒童劇に就いて

坪内逍遙著

定價圓貳拾錢
郵稅八錢

家庭用兒童劇 第二集

目次

- イソップ
- わるい友だち
- 鼠の會議
- 解と芒
- 日本神話
- 因幡うさぎ
- 大國ぬし
- すくなびこな
- 高まが原
- 國ゆづり
- 附録
- 歌劇化したをろち退治

坪内逍遙著

定價圓貳拾錢
郵稅八錢

家庭用兒童劇 第三集

目次

- 二つの猫
- 太陽と
- 正直な樵夫
- なぐちとばつ
- なまな魚煎餅
- 大ききな魚煎餅
- 見え坊の阿呆がらす
- 象と六人のめくら
- 穴忠義な鷹
- かたははもの
- 小さい娘になった猫
- うぬぼれた風見草
- いつまでもつくお話
- 美しい歌

坪内逍遙著

小川治平氏畫
穴戸左行氏畫

學校用小脚本

定價貳圓
郵稅八錢

坪内博士の家庭用兒童劇は全國到る處に普及せられ、其眞價を認めらるゝに到つたが、博士は今や我社會の現狀に鑑み更に新意を凝らし、特に學校用公演用に適すべき大小七種の少年劇脚本を創作せられた。何れも博士獨特の斬新輕妙な構案に成つたもので、其多くは小歌劇の形式で綴られ、題材も其取扱ひ方も在來の所謂童話劇とは其撰を異にし、大人の讀物としても興味深いものである。舞臺裝置、扮装等の指圖も深切を極め、挿圖も作意に副つて妙を盡してゐるから、直ぐにも公私の實演用に役に立ちます。

早稻田大學出版部

東京東區
牛車水一丁目
三二九番地
大坂

終

